

授業概要

子どもの身体を理解するためには、自身の身体を理解することが必要である。学生自身が実際に身体を通して表現する過程を体験することで、表現者としての自分自身を成長させ、同時に保育者として子どもへの理解をも深められるよう指導する。

また、日常保育と発表会などの行事とを関連付けて指導する。

授業計画

第1回	オリエンテーション、子どもの生活と身体表現	＜講義＞
第2回	基本ステップ	
第3回	基本ステップ	ステップの組合せと空間構成
第4回	基本ステップ	創作
第5回	基本ステップ	作品発表
第6回	表現あそび	道具
第7回	表現あそび	模倣、オノマトペ
第8回	表現あそび	絵本、ことば
第9回	舞台発表会の演目を創作する	導入
第10回	実技テスト	
第11回	舞台発表会の演目を創作する	創作①
第12回	舞台発表会の演目を創作する	創作②
第13回	舞台発表会の演目を創作する	中間発表
第14回	舞台発表会の演目を創作する	まとめ
第15回	発表会	
第16回	発表会の振り返り、レポート提出	

到達目標

- ・ 幼児期の特性と表現活動の関係について理解し、生活の中にある様々な表現の契機を捉える力を獲得する。
- ・ 子どもの表現を受け留め、共有できる感性を高める。
- ・ 子どもの豊かな身体表現を導くための知識や技術を習得し、工夫と適切な援助・指導ができるようになる。
- ・ 学生自身も表現者として「感じて・考えて・行動する」力を養う。
- ・ 身体表現活動を通して他者とつながり、共同での創造的活動を行う理論と実践力を身につける。

履修上の注意

- ・ 毎時、プリントを提出することで出席とする。
- ・ 遅刻は、やむを得ない場合 20 分以内で認めることがある。それ以降は欠席とする。遅刻は 3 回で欠席 1 回と同様の扱いをする。
- ・ 講義の指定がある時以外は実技である。運動をするのに望ましい服装・身だしなみで受講すること。室内用の運動靴を履くこと。
- ・ 講義、実技を問わず筆記用具を持参すること。また、B5 ノートを用意すること。適宜、ノート提出を行う。

予習復習

予習：シラバスを確認し、自身の生活や子どもの生活を観察しイメージを膨らます。

復習：プリントを提出し、ノートにまとめる。

評価方法

授業内課題、創作作品への取り組み、授業態度等の平常点 50%。実技テスト 30%。レポート 20%。

テキスト

毎時プリントを配布する。

【参考文献】

平田智久・小林紀子・砂上史子編『最新保育講座 11 保育内容「表現」』、ミネルヴァ書房、2012 年